

2017 春季 ClassNK 技術セミナー	
13:30	開会挨拶
13:35	一般財団法人 日本海事協会
講演 I NK の研究開発の取組み	
13:35	NK の研究開発活動をさらに推進することを目的として、損傷調査部門の技術研究所への移管や技術研究所と研究開発推進部の統合などの研究開発関連組織の改編を行ってきました。また 2016 年 9 月に策定された中期経営計画（2017 年～2021 年）に基づき、中期研究開発事業計画を 2017 年 1 月に作成しております。このような NK の研究開発に関する取組みをご紹介します。
13:55	
講演者：一般財団法人 日本海事協会 技術研究所	
講演 II 船体構造関連のガイドラインと規則改正の取組み（仮題）	
13:55	2015 年のコンテナ運搬船の縦曲げ強度、縦曲げ最終強度及び直接強度計算に関する規則改正にはじまり、この間 NK はコンテナ船の曲げ振り強度に関する規則改正、液化ガス運搬船（独立球形タンクタイプ B 方式）の船体構造強度に関するガイドラインや自動車運搬船のラッキング強度評価に関するガイドライン（降伏強度評価ガイドライン）等の作成など、船体構造関連の規則やガイドラインの整備に注力してきました。このような NK の取組みと今後の計画について、概要をご紹介します。
14:15	
講演者：一般財団法人 日本海事協会 船体開発部 / 技術研究所	
講演 III 2020 年の燃料硫黄分規制強化と技術的対応 (SO_x スクラバなど) について	
14:15	世界的な燃料油の硫黄分濃度規制値が、2020 年から 3.5%から 0.5%へと強化される事が決定しています。同決定を受け、同規制への対応方法の一つとして有効と考えられている SO _x スクラバへの関心が高まる中、本講演では、SO _x 規制の背景、技術的な対応をご紹介します。併せて、SO _x スクラバに関する技術動向及び弊会の取組みについてをご紹介します。
14:50	
講演者：一般財団法人 日本海事協会 機関部 / 調査企画部	
14:50	休憩
15:10	
講演 IV 共同研究成果：騒音関連全般（仮題）	
15:10	騒音コード強制化に対応する船舶の居住区設計の一助となることを目的として、騒音予測技術の確立、騒音対策効果の検証等の共同研究を継続的に実施してきました。これらの共同研究にて得られた成果をご紹介します。
15:45	
講演者：一般財団法人 日本海事協会 機関部 / テクニカルサービス部	
講演 V 国際条約等の動向	
15:45	IMO 第 70 回海洋環境保護委員会（MEPC 70、昨年 10 月開催）及び IMO 第 97 回海上安全委員会（MSC 97、昨年 11 月開催）の審議結果のほか、バラスト水管理規制、温室効果ガス（GHG）規制等について地域規制を含めた最新の動向をご紹介します。
16:20	
講演者：一般財団法人 日本海事協会 国際部	
閉会	